

高野長英記念館の風景

「渾天儀(こんてんぎ)」

運動不足解消にウォーキングしていると 西の夜空に非常に明かるい星が2つ その下にも星が輝いて幻想な夜空を楽しむことができました 東の方向を見ると 一日遅れの今年最少の「ブルーマイクロムーン」も楽しみ 得した気分になりました 水沢の江戸時代後期の蘭学者・天文学者小圃仲達(おばた ちゅうたつ) 彼は月や太陽の動きを説明する道具「渾天儀」(こんてんぎ)を当時 作製したとのこと もし 仲達が生きていたら この「渾天儀」を用いて 1ヶ月に二度の満月と地球から最も遠ざかるタイミングの満月を説明して欲しいかったと 訪れた天文関連施設の企画展を思い出しながらしみじみと 感じました

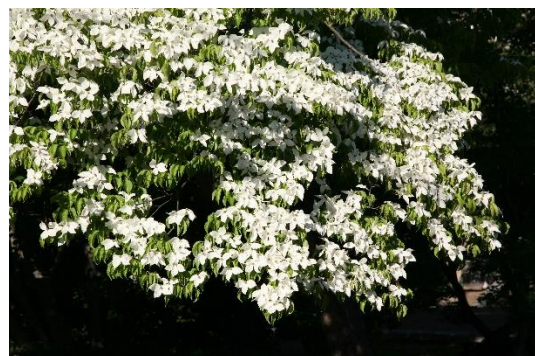
【撮影：5月19日・29日】



アヤメ



シラン



ヤマボウシ